

# 地上の花

高田市保育園  
根 岸 草 笛

一 昨年一の秋の頃でした。

雄ちゃん一と云う男の子が、腫物ウツで浮腫ウツのある足を重そうに引きずつて参りましたので、お薬をと思ひ、かい抱いて良く診ますと、その汚い足一ばいに、おぼつかない墨の假名書きで、「うま」、「うま」と書き散らしてありました。

可笑しいと思ひ、お母さんに聞きますと、當地では浮腫の事を俗語でクサと申すそうだ、その浮腫の出来た所へうま一と云う字を書いておくと、うまが好物のクサを喰べてくれるから早く癒えるというお呪いだ一と教えてくれました。

私自身、母の形見のこの小園を引繼ぐ前に約十年程、愛育村のお仕事に情熱を打ち込んで居りましたので、迷信には馴れていましたから、その時はまだその答えを大して氣にもせず、手早くお注射をしたり、ザルベを貼布したりして處置をして仕舞いましたが、その後しばらくしてから、又、漆にかぶれた女の子が、お顔と上半身をすつかり赫くして参りまし

たので、お家へ行つて、「病院へ行きましようよ、腎臓炎になるといけないから」と、お留守居のお婆さんに相談しましたところ、「とんでも無い。漆かぶれを醫者になど見せると痕跡が残る。それより、もうとうに、昨日のうちに、漆の嫁入りを済ませてあるから明日か明後日すぐ癒る。」と、言つて相手にしなさいのです。

漆の嫁入りと云うのは、やはりお呪いの一種なのですが、漆にかぶれた場合に、お酒と盃を持つて被害者を漆の前に連れて行き、口にお酒を含んでフーツと三べん漆の木に吹きかけて三々九度のお盃の眞似をし乍ら「漆、漆、さあこれでお前の嫁御になつたから元のキリヨウにしておくれ。」と、申しますと、漆が氣嫌をとり直し、どうせ自分のお嫁さんになつたのならば、綺麗なお嫁さんの方がよいと云うわけで、忽ち元通りに癒してくれと云うのです。

こんなことが度重なりますうちに、市と申しましても、まだ地方の小都市の母達の間には、農村と同じく刈つても根強く絶えない雑草の様に、迷信や傳染病が蔓延してい

て、私達の文化國家建設の理想とは凡そ縁遠い状態にあると云うことを、しみじみ悟らせられました。

又、黄昏時に街を歩いて見ますと、あちこちで子供達が哭いています。

一日の勞苦に疲れた母達が、乏しい材料を掻き集めて、夕餉の仕度に、只でさえ焦ら立ちたい神経を酷使している時に、空腹でむつかる幼児達の色々な要求はすいぶんと煩わしい事であろうと、ひどく同情はされますけれど、それにしても、あまりにも手荒な取り扱いをされたり、もの凄いや言葉で叱られたりしている場面に遭遇しますと、「教育」などという言葉と、全く正反對な様な氣がして、痛さに胸がえぐられます。

そして、「あゝ、これでは幼い者達の小さな心身がメチャ／＼になる。私達の晝間の幾時間かの保育の心遣いなども、達がこの有様では結局うたかたの様に消え失せて仕舞うのではないか。何とかしてこの母達をもう少し人間的文化的にその教養を高めて行けるような方法を一日も早くとらなくては行けない。」と、思い暮らす様になりました。

## 二

そこで、その具體的な指導方法に就いて、智慧を練つたのでございますが、この頃、指導者の間に、女性の自覺とか、母性の自覺とか云う言葉がしきりに叫ばれています。

母如何に新憲法に於て男女の本質的平等が規約され、参政權

が與えられたり、改正民法が實施されたりしたと致しまして、婦人自らの自覺が無くては、これまでの封建的隷屬的、非文化的な生活からの解放は望めない。

然しその指導方法は相變らず講演會、講習會、ラヂオ、新聞、ポスターと申します様な行き方で、そこには何等の新しい創意も工夫も見當りません。

しかも、私達の相手とする一般家庭の主婦達の只今の日常生活は、殆んど生きんがための食生活に全精力を奪われて、いとしい我が子の愛育に對する關心さえ磨り減らされていまして、その講演會はおろか、新聞やラヂオとさえ絶縁状態の人達が大部分であります。

それで所謂世の指導者の言葉は理窟としては十分に頷けるのでございますが、母性教育の現場の實際問題としては、如何にして諸々の母達に、自覺しなくては行けないと云う自覺を持たせるかと云う事柄の方が重大な先決問題なのでございまして、多くの母達はまだその自覺せねばならぬと云う自覺以前にあります。

一例を申しますと、過日の總選舉の時には婦人の棄權防止の懇談會をやれとの指令が参りましたが、懇談會や講演會に出席するだけの意欲のある者は出席してもしなくても、決して棄權などしませんし、又、何等かの方法でグン／＼と自分の力で向上して行きますが、その意欲の無い人達は、どんなに榮養價の高い講演會であろうと、それを聞きに来なければ自分の物にする事が出来ぬではありませんか。

人の来るのをボカンと待つていて、それで從來までの様に指導者が一段と高い所から見下ろしたり、號令をかけたたりしてみても、聞き手が無ければ無駄になりますし、又無理に聴衆を狩り出したりする事は當然民主主義の國掟にも反します。

ですから何とかして、母達の中から自分達の子供をより良く育てるために、お互いをもつと協力したり、勉強したりしなくては行けないと云う意欲が旺んに盛り上つてくる機会を掴めぬものかと心の中に激しい祈りの火を焚きながら、チット靜觀して居りました。そして保母達四人が心を併せて日々の保育に、眞實を傾け盡して居りました。

### 三

ところが或る日、ムツ子さんのお母さんが園へ来て、「先生、あまり無様な質問でござりますが、うちの主人は大貫と申す小さな学校の校長をして居りますが、この物價高で經營上、非常に苦心して身の細まる想いをしてします。なのにムツ子達は僅か月一圓二〇錢ぐらゐの間食料で、この缺配の最中に、時々オジャを戴いたり、甘酒を飲ませて戴いたりしたと申して報告しますが、一體どうして品物のやり繰りをしていて下さるのでしょうか、それから間食料を何故値上げなされないのですか、國民學校あたりでは、後援會があつて月々會費を徴収されます上に、時々、先生方のお見舞にと云つて全市の人達に頭割りの寄付の割當がくる位いですのに、保

育園の先生方は私達に一言の愚痴も仰有らないし物品を集めるとも仰有らない。

どの道、お互いに樂な筈はないのに、遠慮して何も仰有らないとなると、人一倍手のかゝる子供達を我が子以上に可愛がつて戴いて居る此方が、黙つて見て居るわけには行かない。と、云う氣がして、この間から、四五人の方達と話し合ひを始めて居ります。金澤さんも、紫さんも、五反田さんも、皆んなが皆な、亡くなられた若先生の時代から、たゞ今まで引續き五人も六人も兄弟を全部お襦袢の頃から預つて戴きおかけ様でどうやら生計も立つて居りますし、岡田さんなど、この間徳さんの疫癘を早く見つけて戴いたおかげで危し生命拾はしたからと云つて、とても一生懸命なのでございます。」と云つてくれました。

私、とても欣ばしくなつて、頬を染め乍ら切々と想いの程を語りました。

おじやがは裏の畠を先生達が耕して收穫したものと、農學校の御好意に依る公定價格の品物であること。甘酒は私の親類の完納の百姓さんに事情を話してお節句のお祝ひに貰つて来たこと。しかし何時までも私達個人の力だけで續かどうか先の見透しがつかぬこと。又豫算をすつかり公開して、市の豫算も非常に窮屈なので、繪本その他の保育材料も買えずに困つて居ること、などを。それから私達の生活まで、お母さん達の好意に甘えると心の重荷になるから、その方は志だけ有難くお受けして絶對にお断りしたいけれど、皆さんが心

を一つにして子供達のお手傳いをして下さるとあらば此方でも是非お願いしたいと思つて居た折ですから、一日も早くその母の會を結成して下さい。私達も出来るだけのお役に立ちたいと希望して居ます。

と。  
そして、その晩から直ちに準備委員會がつくられて設立の準備が進められ、約一週間後に總會を開いて、會則が議決され、役員の顔ぶれも決まりました。

#### 四

その會則には大して變つた點もございませんけれど、兎に角、徹底的に母達の自發活動が主體になつて、私達はその良き助言者であると云う型をとりました。

又、役員は多からず少なからずと云う點を狙い、これまで園の方から連絡係を頼んでいた各町の班長九名の中から互選で委員を擧げ、又その委員の互選で委員長が擧げられました。會長をつくりますと、少し難しい事柄は會長一任と云う様なことになり勝ちで、他の役員が動きませんので、お互いが共同の責任を負う意味で委員制度にしました。

そして、その人達が中心になつて、最初は保育園の援護事業から活動が始められましたが、以後會員の活動は次第に目ざましくなりまして、私共が少しボヤ／＼として居りますと母達に追廻はされる程になり、昨年の冬籠りのお仕度などは始んど母の會の斡旋で出来ました。(豫算は市の方にあるの

ですが、なか／＼現品を手に入れる事が出来ませんので)

お炭十俵 金谷村に炭焼きの叔父さんのある竹澤さんのお

かけ

薪三百束 正善寺谷から嫁いで來たと云ふ紫さんのおかけ  
杖きつけ七俵 お家の大工さんの金津さんのカンナ屑のお

かけ

雪圍いの竹三束、繩一丸げ お家に竹藪のある山崎さんの

おかけ

藁靴十足 風間さんのお手製品の寄附

と云う有様で、おかけ様で昨年は文字通りお母さん達の温かい心盡しによつて、幼い者達は安心して温い冬を過す事が出来ました。

その外、季節々々には、おじやがや南瓜の收穫(大部分品があります)を給食の足しに班長さんが、私達には誰がどの位いと云う名前や分量を知らせずに一纏めに集めて來てくれますし、お雑巾や、鼻紙や、古布、(繻帯の材料)なども、どんなものでも出せる人が出せるだけと云うことを建前にして、飽くまでも自主的に集めて來て来ています。

そして、生活扶助を受けてゐる人達を除いた全部の會員が、お金のある人はお金、品物のある人は品物、努力のある人は努力、それからお金も力も何も無いけれど、私は教師でお話が上手だからと云う様な人は委員會や總會の司會を受け持つとか、會計係を引受けるとか云う具合にして美しく授け合つて来ています。のみならず班長さんや委員さんの都合

の悪い時には、お父さんがリヤカーを引いて見えられたりして兩親協力の良いお手本も示してくれております。

そしてこの頃では、自分の子供一人が宇宙のすべてで、お隣り近所とさえ協力出来なかつた母達がすっかり成長して、始終園全體の子供達の事を考えてくれる様に心が豊かになつて参りまして、先頃にも、子供達の蛔蟲驅除の時期になりましたのに生憎、藥劑が手には入らず延ばして居りましたところ前出の金津さんと云う委員さんが来て、「先生、セメンを見付けて来ました。靜子に飲ませたいと思ひ厚生同盟へ探しに行きました、どうせの事、保育園の皆さんにも飲ませてあげた方がよいと思つてお知らせに來ました。お金は豫算が無かつたら母の會で集めますから。」と、云うお話がありました。

それで私が直ぐに役所へ飛んで行つて、課長さんにその旨をお話しましたら、勿論衛生費など、ギリ／＼の所まで使ひ果してあるのですけれど、「お母さん達がそれまでに熱心なのに、高田市ともあるものが、それしきの経費が出せぬとあつては面子にもかゝる。宜敷い、何處かゝら捻出しましょう。」と、仰有つて下さいました。

それで私も「ついでに北ばかりではなしに東も南も同じ市の子供なのですからどうぞ飲ませてあげて下さい。」と、お願ひして實行して貰いました。

金澤さんは教育も小學卒業程度の低い人なのですけれど、しかしその母一人の自覺と愛情が遂に私達の園児のみならず

全市の園児の上に乗まで生きて参りました一つの微笑ましい實例でございます。

## 五

こんなにして私達の母の會は先ず園の經營の面から積極的な活動が始められました、母の會のありようとしては是非文化的な活動もなされなくてははいけませんし、又、それをこそ切望して居たのですから、その方面は保母が受け持つことに致しました。

そして、前にも申し上げました通り、終日外へ働きに出たり、乳呑子を抱えて毎日のお炊事と洗ひ物に追われて居る母達を、そう／＼度々、園に招き寄せて難かしいお話を無理に聞かせるのも酷だと思ひまして、ピクニックや運動會の様な愉しみの集り以外は全會員が一堂に集つて總會を開くと云う様な大きな會合は年五、六回に留めておきます。

その代り、主題があつたら私達がドン／＼出て行つて班單位の小さな集會を持ち、御夕飯のほんの一時を涼み臺に腰かけ乍ら、と云う程度の軽い氣持で、極く短時間に、要點をかいつまんで色んなことを話し合つて來ます。

それから回覽板を簡略にしかも興味深く工夫して、各方面の問題をとりあげ、積極的に活用してゐます。

### お知らせ 第 號

昨日配給のするめは、一晩でもお醤油か、お味噌の中へ漬けておくきになれば、(薄い鹽水でも結構です。)お子様方

でも樂に美味しく召し上がれます。カチ／＼の儘を火であぶりますと尙更固くなりますので、お辨當の時に折角の御馳走が噛み切れず、遂方に暮れていらつしやる方を二、三人お見受けしましたから、一寸お知らせしておきます。尙、お焼きになつても鉋丁で縦にお切りになれば、よほど喰べ易くなります。

お知らせ 第 號

千鶴子さんのお母さんから、子供を映畫に連れて行つてよいかどうかと云う御質問を受けました。今春から、學校のお兄さん達が自由に見られるので、一緒に連れて行けと云つて暴れて困ると仰有るのです。

さだめし皆さんのお宅でも時々お困りになると思いますが、ついでにお知らせ申し上げますが、よい映畫なら、それから誰か確りした方が附き添つて、出来れば晝間に行つて下さるならば、絶對禁止をなさる必要はありません。殊に只今來ています「緑のそよ風」など、マーガレットオプライエンと云う小さな可愛い子供役が優しく聰明な両親に慈しまれ乍ら、無邪氣な惡戯をしてお父さまに叱られたり、水遊びが過ぎて洪水の大川に押し流されて村人達に救助されたり、夜中に街を通るサーカスの象を見につれて行つて貰つたり、非常に愛され乍ら又大事な所は厳しく躰けられて居る、あちらの子供の家庭教育の様子が見ておても溜息が出る位に美しくしかも面白く撮られていますから、親子して御覽になるならば随分と爲になる教育映畫で

す。

然しなるべくならば、まだお小さいのですから、あんなに空氣も座席もキタナイ人混みの中へはお連れにならないで下さい。

夜分は殊に。

お知らせ 第 號

麻疹がいよ／＼北本町にも侵入して來ました。先日申し上げました豫防の御注意を、もう一度思い出して下さい。

お知らせ 第 號

圖書館に三日—十一日までの間、アメリカの子供の繪本や教科書や讀み物が來ています。

綺麗な挿し繪や確りした本のつくり方を御覽になるだけでも、大變勉強になりますからどうぞ私達は横文字が讀めないから解らないなど、諦らめて仕舞わずに、配給とりの歸りにでも、一寸覗いて見て来て下さい。

それから若しも日曜の午後にはいらつしやれる方があれば、私達も御一緒に行つて館長さんに詳しく説明して戴いてあげます。

館長さんは一人でも餘計に來て下さいと大歓迎をしていらつしやいますよ。

と、云う調子でございます。

## ○新保育講習會

東京女子高等師範學校主催の、幼稚園教員新保育講習は、七月の第一期五日間について、その第二期が、十月八日から五日間、同校において開催せられた。熱心な講習員諸君の中には、北は盛岡新潟、南は鹿児島大分等からの遠來の友もあり、總員約三百名、第一期からの懇親を重ねて、和氣あつたの間に豫定の通り行われた。

### 第一日

#### 一、開會のことば

#### 一、保育要領についで

#### 一、「保育要領」研究會

### 第二日

#### 一、幼児心身の發達及びその各方面の指導

#### 一、「保育要領」研究會

### 第三日

#### 一、新しい幼稚園の實際

#### 一、「保育要領」研究會

#### 一、主催者挨拶

### 第四日

#### 一、幼児心身の發達及びその各方面の指導

#### 一、「保育要領」研究會

倉橋幼稚園主事  
坂元彦太郎講師  
倉橋幼稚園主事  
坂元彦太郎講師  
山下俊郎講師  
山下俊郎講師  
倉橋惣三講師  
藤本女高師校長  
山下俊郎講師

#### 一、特別講演「近代における幼稚園教育」

ヘファナン女史

#### 一、附屬幼稚園實地保育參觀

### 第五日

#### 一、實地保育參觀の研究討論

#### 一、實地保育參觀の研究討論

以上の日程はいずれも充實したものであつたが、殊に「保育要領」の研究會は、文部省の幼稚園保育内容調査委員諸君（第一日、鎌田、及川、内藤、吉見。第二日、山下、井手。第三日副島、多田、内山、の諸氏）が、指導應答し、實地保育參觀研究討論會は、附屬幼稚園の當日保育の實際に當つた諸君（菊池、宮本、上遠、岡崎、吉田、伊藤、の諸氏）が説明應答し、いずれも倉橋主事司會の下に、講習員諸君の活潑な發言相ついで、時間のうつるを忘れ、新しい講習形式として、最興味あり意義深い成績が挙げられた。更に總司令部教育部ヘファナン女史の特別講演は文部省囑託功刀女史の巧妙な通譯を以て、豊かな示唆と感激とを與えた。斯くて出席の會員は、文部省講習規定による一般課程、教職課程の修了を證明された講習修了證書を懷にして、その任地に歸られた。（附言）「保育要領」は文部省の幼稚園保育内容調査委員會の長期に亘る熱心を討議研究の結果を以て、文部省初等教育課によつて編集せられ、目下、整理中であつて、近く刊行せられる筈である。本講習會を第一期第二期に分けたのも、七月に保育要領が未完成であつた爲、その刊行を待つ

て、十月に第二期を開くこととしたのであつたが、それが間に合わなかつたことは遺憾であつた。併し、その内容の目録を印刷して會員諸君に頒ち、各問題につき、三回に亘りそれ／＼その悔に當つた委員諸君から説明せられ、質問應答を重ねられたのであるから、その大要を領得せられたことと思ふ。

尙、本講習は、初め、文部省の指示に基いて、認定講習會として計畫されたものであつたが後、認定講習會たる名がやめられた爲、第二回は、新保育に關する實力講習であり、舊幼稚園教育免許状を持される方々のための再教育講習として開かれた。従つて第二回は認定講習ではないが、各種課程の内容と時間數は、文部省の初めの認定講習の規準を守つたもので、その修了證書も、文部大臣認可講習會としての修了證である。

同様の主旨の講習會は各地にも開かれることであり、今回の幼稚園教員諸君が、それ／＼便宜の機會を逸せられないことをおすゝめする。資格に關することは別としても、新學制の革新に伴う研究は、各人必須のことであり、新憲法、教育基本法、學校教育法、新教育の原理、その基礎としての新教育心理學は勿論、幼稚園の教員にとつては、小學校、中學校の教員に一學習指導要領」の研究が必要である如く、「保育要領」の研究が必要であつて、その講習會に出席せられると共に、「保育要領」刊行の上は、講習會に出席した人も、後に出席しようとしていられる人も、そ

の書について自己研さん怠らないことが希望せられてゐる。(十月)

### ○本會編『幼稚園お話集』

本會が前に刊行した『幼稚園談話集』は、幼児を相手に、幼稚園の先生方、家庭のお母さん方が、お話しせられる資料、また、そのまゝ讀んで聽かせるに、児童として、廣く用いられてゐた。その後久しく絶版のまゝ、諸方の御要求に應じ得ないことを遺憾としていたが、新たにフレール館から發行せられた。すべての保育教材と同じく、児童のうちにも再検討を要すべきものがあり、廢止を適當とすべきものがある。新版においては、その點に嚴密な注意が拂われた。そうして、それらを除くとともに、新しい児童四十餘篇が加えられた。適當な幼児談話集の少ない今日、廣く用いられること、信し、本會の自せんするところである。上中下三卷に分冊したのは、一冊ずつでも早く刊行したかつたことと、當節柄定價を分割しようとしたことと、殊に、使用に便にしたいためであつた。上卷は既に出版、中卷下卷も既に印刷を了つて、順次出版されようとしている。『お話集』としたのは、古い保育項目の『談話』という語を避けたのである。(定價その他、本誌廣告欄)